

3 日本研究フェローシップ

申請書略号：RJS-FW
担当：日本研究・知的交流部各チーム

海外における日本研究を振興するため、日本について研究する学者・研究者等に対し、日本で研究・調査活動を行う機会を提供します（自然科学・医学・工学分野は対象外です）。以下の三つの種別があります。

学者・研究者（長期）

対象者：人文・社会科学分野の手法を用いて日本に関わる研究（比較研究を含む）を行う研究者等。

期 間：2か月（60日以上）
～12か月

学者・研究者（短期）

対象者：人文・社会科学分野の手法を用いて日本に関わる研究（比較研究を含む）を行う研究者等で、資料収集・調査の実施等のため短期の訪日研究を必要とする方。

期 間：21日～59日

博士論文執筆者

対象者：人文・社会科学を専攻し、日本に関わる研究（比較研究を含む）を行う大学院生等で、原則として博士号学位の取得に必要な課程を修了し（又はフェローシップ開始時まで修了予定で）、博士論文提出の資格を有し、学位審査の論文作成のために来日する必要がある方。

期 間：4か月～12か月

申請資格

(1) 以下の要件を全て満たしている必要があります。

- ア 日本と国交がある国の国籍を有する方（台湾の方も「学者・研究者（長期）」又は「博士論文執筆者」に申請可能です）。
- イ 過去に本フェローシップをはじめとする国際交流基金のフェローシップを受給したことがある場合には、その受給期間終了後、2019年4月1日までに満3年（ただし、最後に受給したフェローシップが「学者・研究者（短期）」の場合は満1年）を経過している方。
- ウ 2019年4月1日まで1年以上継続して日本滞在を予定していない方（同日時点において日本国内の居住者である方は受給資格を満たさなくなりますので、ご注意ください）。
- エ 日本語又は英語で研究活動及びコミュニケーションができる方。
- オ 日本での指導教員・アドバイザーが申請時まで確保されている方（ただし、「学者・研究者（短期）」はこの限りではありません）。

(2) 以下のいずれかに該当する方は申請できません。

- ア 学部学生・修士課程在学中の方。
- イ 日本語習得、産業関係の技術習得、日本語教材制作及び芸術・伝統文化（茶道・華道等）分野の技能習得を目的とする方。

支給内容

往復航空賃（居住地—日本間の最短経路による割引エコノミークラス）、滞在費等

採用実績（参考）

採用81件／応募347件（平成30年度）

選考方針

- (1) 全プログラム共通の選考方針はp. 4をご覧ください。
- (2) 幅広い層からの採用を念頭におきつつも、とりわけ中堅及び若手の研究者を優先します。
- (3) 選考に際し、各地域、国、受入機関のバランス等も考慮します。
- (4) 国際交流基金のフェローシップを複数回受給したことのある方は、とりわけ優先度が低くなります。

申請締切

2018年12月3日（米国の申請締切は2018年11月1日）（必着）

助成内容

2019年4月